

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[37]歳、勤続年数[13]年、現場経験年数[13]年、階級[消防司令補]、同様の活動[数年に1度程度]、任務[複数隊の隊長]
○当事者B	年齢[48]歳、勤続年数[30]年、現場経験年数[30]年、階級[消防士長]、同様の活動[数年に1度程度]、任務[車長]
○当事者C	年齢[36]歳、勤続年数[16]年、現場経験年数[16]年、階級[消防副士長]、同様の活動[数年に1度程度]、任務[隊員]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1		救助出動指令	
経過2	救急隊員	現場到着	B・C
経過3	々	約3m下の転落者の場所へ進入	
経過4	々	初期観察を実施	
経過5	救助隊	現場到着	指揮・ポンプ隊×1
経過6	救助隊長	発災場所の確認	A
経過7	周囲の隊員	救出活動前の自己確保の準備	
経過8	救助隊長	周囲の状況を確認(救出方法の選定)	
経過9	々	救急隊員への自己確保を指示	B・C・要救助者へ
経過10	々	足場の岩が崩落	

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思いませんか?
ヒヤリハットの場合: ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思いませんか?

たまたま、負傷事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	はい

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	はい

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

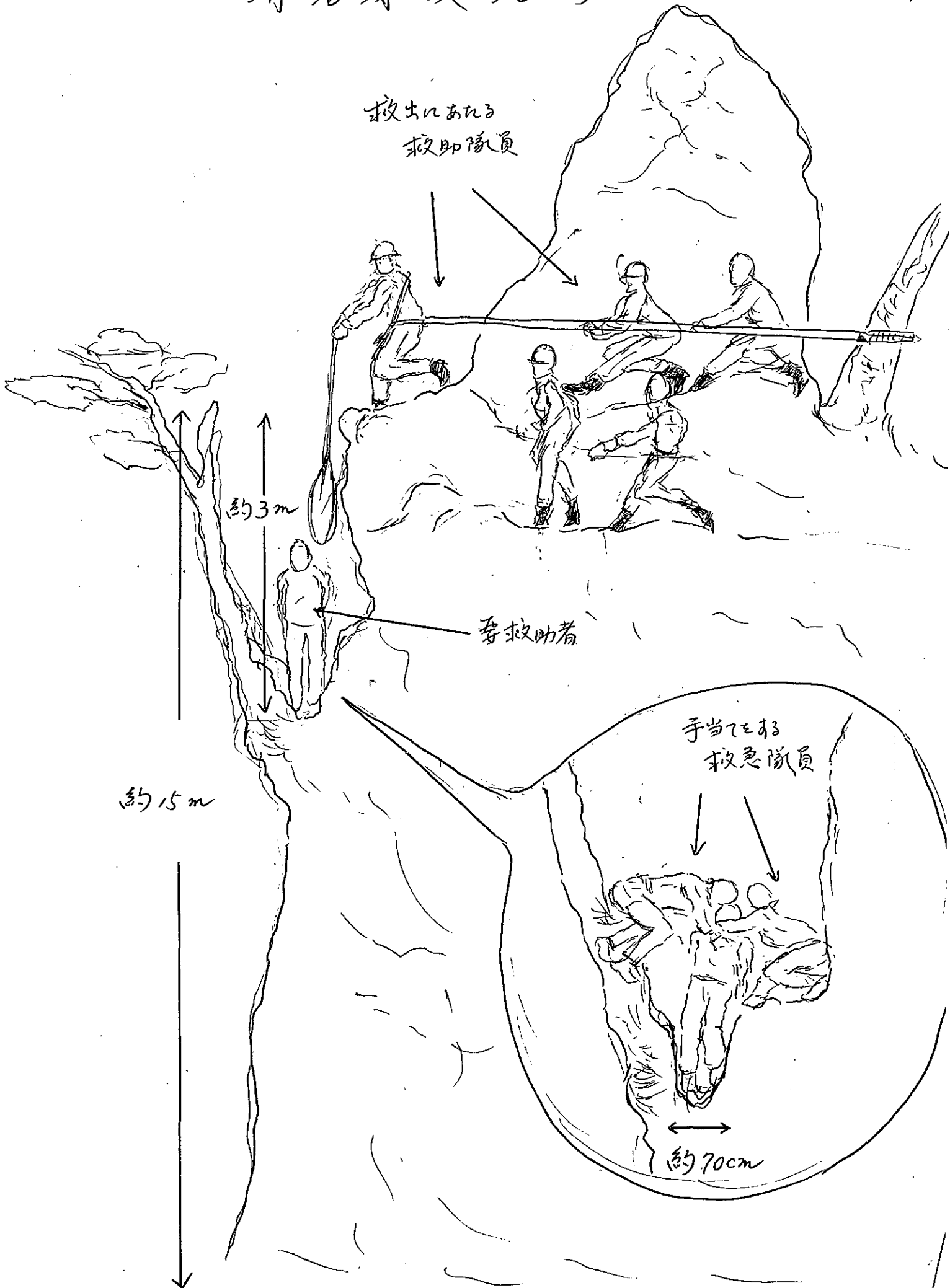
○その他

l. その他の理由があった。

はい：岩場の崩落により、救急隊員と要救助者が転落する危険性が非常に高かった。
--

滑落事故現場図

2課センター



・発生日時：平成20年3月20日 午前11時頃

経過	現場の状況	隊員A 複数隊の隊長／消防司令補 ・年齢 37 歳 ・勤続 13 年 ・現場 13 年 ・同様の活動：数年に1度程度	救助隊員	隊員B 車長／消防士長 ・年齢 48 歳 ・勤続 30 年 ・現場 30 年 ・同様の活動：数年に1度程度	隊員C 隊員／消防副士長 ・年齢 36 歳 ・勤続 16 年 ・現場 16 年 ・同様の活動：数年に1度程度	備考
出動指令	滑落事故現場への救助出動指令					救助出動
出動途上						
現場到着	高さ15mの尾根から約3m下方に要救助者			現場到着		
活動初期				約3m下の要救助者の場所へ進入		
				初期観察を実施		
		現場到着		要救助者への応急処置を実施		指揮・ポンプ隊×1
		発災場所の確認				
活動中期			救出活動前の自己確保の準備			高さ15mの高所を考慮し、確保ロープの早期設定、ロープ支持点の強度等には、十分考慮していた
		周囲の状況を確認(救出方法の選定)				
		救急隊員への自己確保を指示				
		要救助者の箇所まで降下しようとする			要救助者への応急処置を実施中	地盤面が岩場であり、崩れるといった危機管理意識が不足していた
活動後期	救助隊の足場の岩が崩落					地盤面が岩場であり、崩れるといった危機管理意識が不足していた
		滑落しそうになる		崩落してきた岩で負傷しそうになる(要救助者も同様)		

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

- 直接的な原因：行動の実行に問題があった。
- ・たまたま、負傷事故にならなかった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

- (心理・体調について)
- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
- (活動環境について)
- ・狭隘な場所であった。
- ・暑かった(寒かった)。
- ・現場周辺の地理に不案内だった。
- ・足元が躓いたり滑りやすかった。
- ・足元の強度が不足していた。
- (指揮・管理について)
- ・隊員の連携が不十分だった。
- (その他)
- ・岩場の崩落により、救急隊員と要救助者が転落する危険性が非常に高かった。